刊行にあたって

「バブル崩壊」という経済的な事件が、日本で一九九〇年近辺に起こりました。一九四五年に第二次世界大戦に敗戦した日本は、戦後の復興から、約半世紀にわたる経済成長をとげましたが、「バブル崩壊」は「高度経済成長」から続いていた日本の右肩上がりの時代の終わりを告げるものでした。

それ以降、日本では「失われた三十年」とも言われる沈滞の時代が続いています。

「一億総中流」と呼ばれ、がんばれば誰もが豊かになれると信じられた社会から、貧困率が上昇し続ける「格差社会」へと、日本の社会は姿を変えつつあります。子どもたちの生活においても、「7人に1人」が貧困であると言われています。

貧困は子どもたちから教育の機会を奪います。子どもが成長して親になったときに、教育の不足ゆえに低い収入で働き続けることを受け入れざるを得なかったとすれば、その次の世代の子どもも、また貧困に苦しみ、十分な教育から遠ざけられかねません。これは「貧困の連鎖」「格差の連鎖」と呼ばれています。

また、教育の不足で十分な収入が得られないために、不本意ながら結婚や出産をあきらめる人たちもいることでしょう。青壮年の貧困は「少子化」の大きな原因のひとつともなっています。

こういった悪循環は、日本の現在の大人である私たちが作りだしたものであり、子どもたちには何の責任もありません。この悪循環を止めるにはいろいろな方法があろうかと思いますが、「高齢化」が進行し、福祉にますます財源が必要になる中でも、貧しさが原因で子どもが学びをあきらめるような社会をつくってはならないと、私たちは考えています。

『ワンコイン参考書・問題集（税別500円）／ツーコイン電子参考書・電子問題集（税別200円）』は、未来を担う日本の子どもたちが安くても良質な参考書・問題集を手に取れるようにとの思いで刊行しました。この理念に賛同してくれた著者の先生や、制作会社、印刷会社の人たちのおかげで、このシリーズを刊行することができました。

子どもたちよ、どうか「学びを、あきらめない」でください。このシリーズが子どもたちの役に立つことを祈っています。

二〇二二年一〇月二七日　日栄社編集部

もくじ

小5国語問題集

第1章　国語の基礎（きそ）　4
第2章　ことばと漢字　42
第3章　文法　80
第4章　説明的文章　116
第5章　随筆（ずいひつ）　142
第6章　物語　166
第7章　詩　196
第8章　戯曲（ぎきょく）　212
解答（かいとう）　220

第1章 国語の基礎（きそ）

1 かなづかい

解答 220ページ

1 次の①～⑤のア～エの中から、かなづかいのまちがっているものを選びましょう。

①
ア ほうそう（放送）
イ こおり（氷）
ウ おうさま（王様）
エ おうきい（大きい）

②
ア あずける（預ける）
イ ちからずよい（力強い）
ウ つづく（続く）
エ すこしずつ（少しずつ）

③
ア　いちじるしい（著しい）
イ　みぢかい（短い）
ウ　じかん（時間）
エ　そこぢから（底力）

④
ア　ゆうしょく（夕食）
イ　ゆう（結う）
ウ　ゆう（言う）
エ　しんゆう（親友）

⑤
ア　そうだん（相談）
イ　おおどおり（大通り）
ウ　ろうか（廊下）
エ　いもおと（妹）

①

②

③

④

⑤

2 次の①～㉖のことばが意味を持つように、それぞれの〔　　〕の中に「じ・ぢ・ず・づ」のどれかを書き入れましょう。

①心〔　　〕くし　②ほお〔　　〕え
③言い〔　　〕らい　④たび〔　　〕
⑤ご〔　　〕っ歩百歩　⑥気〔　　〕かれ
⑦ね〔　　〕る　⑧かん〔　　〕め
⑨ひげ〔　　〕ら　⑩つね〔　　〕ね
⑪あ〔　　〕わう　⑫か〔　　〕る
⑬いれ〔　　〕え　⑭うら〔　　〕け
⑮みか〔　　〕き　⑯ちか〔　　〕か
⑰ちか〔　　〕く　⑱かた〔　　〕をのむ
⑲ち〔　　〕む　⑳つ〔　　〕る
㉑し〔　　〕まる　㉒ち〔　　〕れる
㉓あい〔　　〕ち　㉔〔　　〕しゃく
㉕め〔　　〕らしい　㉖さ〔　　〕ける

2 おくりがな

解答220ページ

1 次の各組のアとイで、おくりがなの正しいものはどちらですか。記号に丸をつけましょう。

① ア 明い　イ 明るい
② ア 必ず　イ 必らず
③ ア 最も　イ 最とも
④ ア 自ら　イ 自から
⑤ ア 整る　イ 整える
⑥ ア 少い　イ 少ない
⑦ ア 晴る　イ 晴れる
⑧ ア 勢い　イ 勢おい
⑨ ア 燃る　イ 燃える
⑩ ア 再び　イ 再たび
⑪ ア 消る　イ 消える
⑫ ア 走る　イ 走しる
⑬ ア 示す　イ 示めす

⑭ ア 果る　イ 果てる
⑮ ア 導く　イ 導びく
⑯ ア 移る　イ 移つる
⑰ ア 営む　イ 営なむ
⑱ ア 教る　イ 教える
⑲ ア 逆らう　イ 逆う
⑳ ア 災わい　イ 災い
㉑ ア 退ぞく　イ 退く
㉒ ア 失う　イ 失なう
㉓ ア 潔よい　イ 潔い
㉔ ア 豊たか　イ 豊か
㉕ ア 半ば　イ 半かば
㉖ ア 作くる　イ 作る
㉗ ア 返えす　イ 返す
㉘ ア 強よい　イ 強い
㉙ ア 近かい　イ 近い

㉚ ア 加える　イ 加る
㉛ ア 喜こぶ　イ 喜ぶ
㉜ ア 負ける　イ 負る
㉝ ア 費やす　イ 費す
㉞ ア 味わう　イ 味う
㉟ ア 弱わい　イ 弱い
㊱ ア 細い　イ 細そい
㊲ ア 悪るい　イ 悪い
㊳ ア 悲しい　イ 悲い
㊴ ア 親たしい　イ 親しい
㊵ ア 改める　イ 改る
㊶ ア 分ける　イ 分る
㊷ ア 調える　イ 調る
㊸ ア 交じわる　イ 交わる
㊹ ア 老いる　イ 老る
㊺ ア 幸わせ　イ 幸せ

㊻ ア 率いる　イ 率きいる

㊼ ア 帯る　イ 帯びる

㊽ ア 確かめる　イ 確める

㊾ ア 志ざす　イ 志す

3 主語と述語

解答 221ページ

1 次の各文の主語を丸で囲み、述語を四角で囲みましょう。

① 白い　雪を　かぶった　山の　峰が　むこうに　美しく　かがやく。

② わたしたちの　身の　まわりには　わたしたちの　興味を　引く　出来事が　たくさん　あります。

③ 火口から　吹き上がる　けむりが　風に　ながされる。

④ ほんとうに　世の中に　あるだろうか、そんな　話が。

参考

主語・述語

「何が（は）」に当たるのが「主語」、「どうする／どんなだ／なんだ」に当たるのが「述語」です。主語・述語が問われたときは、まず述語を確定してから、対応する主語を探しましょう。

⑤　わたし　絶対(ぜったい)に　信じるの、この話。

2 次の各文の――線部の、主語に対しては述語を、述語に対しては主語をそれぞれ書き出しましょう。

①君の　顔は　遠くから　見ると　ハンサムだね。

②頂上(ちょうじょう)近くの　小道は　たいへん　険(けわ)しい。

③白い　波を　たてながら　進む、大きな　船が。

④小さな　あやまちは　だれだって　あるだろう。

⑤遠くで　犬が　ほえて　いるが、君は　聞こえるかい。

①	②	
③	④	
⑤		

4 修飾語

解答 221ページ

1 次の各文の――線部は、どの文節を修飾していますか。

①うまく／セミを／とった／喜びを／文章に／書く。

②けさ／大きな／あさがおが／五つも／咲いた。

③文鳥は／急に／はばたきを／はじめた。

④久しぶりに／友だちから／手紙が／きた。

⑤新聞には、／ニュースを／いちはやく／伝える／役目が／ある。

①	②
③	④
⑤	

2 次の各文の――線部は、どの文節を修飾していますか。

①鳥が／高い／空を／すいすいと／飛ぶ。

参考

修飾語

あとに続くことばの意味や様子をくわしく説明していることばを「修飾語」、説明されていることばを「被修飾語」と言います。

②わたしは／今でも／そのころの／楽しかった／ことを／思い出す。
③石けんで／作られた／人形に、／やがて／くりくりした／眼(め)が／つけられた。
④むすめは／やさしく／ほほえんで／ことばを／続けました。
⑤昨日／ダリアの／花が／はじめて／咲(さ)いた。
⑥川は／うねうねと／のびて／白く／光っている。
⑦パンダが／ごろりと／大きな／体を／横たえた。

①	②	③	④
⑤	⑥	⑦	

5 文型

解答 222ページ

1 次の各文の文型は、ア「何がどうする」、イ「何がどんなだ」、ウ「何がなんだ」のどれにあたりますか。

①校庭の芝生の緑がいちだんときれいです。
②おとといね、それはそれはかわいい女の子が産まれたのよ。
③このあたりでは、夕方、どこからかお寺の鐘の音がきこえる。
④私の育ったところは、たいへんな田舎です。
⑤駅前にある背の高い建物は市役所ですか。
⑥白い粉雪が、まるで砂糖のように降っていた。
⑦あすはなんといっても大切な試験の日です。
⑧外では、はげしい風ばかりか、雪さえもまじってきた。
⑨この中ではいちばん新しい形式のものがぼくのだ。
⑩子どもたちが遊んでいるのを見ているのは楽しい。
⑪君たちのめざましい働きのおかげで仕事が早く終わった。
⑫新しく買ってもらった洋服を着て、私は映画を見にいった。

参考

文型の識別

（1）文の中心となる述語を確定し、（2）その述語に対応する主語を見つけ、（3）主語・述語の関係を考えましょう。品詞分類がわかっていれば、述語を見ただけで、動詞であれば「何がどうする」型、形容詞や形容動詞であれば「何がどんなだ」型、名詞（＋助動詞・助詞）であれば「何がなんだ」型だと識別できます。

①	④	⑦	⑩
②	⑤	⑧	⑪
③	⑥	⑨	⑫

2 次の各文の文型は、ア「何がどうする」、イ「何がどんなだ」、ウ「何がなんだ」のどれにあたりますか。

①けさ、かわいらしい男の子が産まれました。

②この学校の志願(しがん)者が増(ふ)えているのは、たいへん喜(よろこ)ばしい。

③丘(おか)の向こうに見えるのが私(わたし)たちの学校だ。

④適度（てきど）な運動や散歩は老人の身体にもとてもよい。
⑤わたしは電車を利用して学校に通っています。
⑥冷たい雨がしずかに降（ふ）り注いでいる。
⑦ことし、中学校に合格（ごうかく）するのが私の夢（ゆめ）です。
⑧私の兄は自分のことを秀才（しゅうさい）だと思いこんでいる。

①	③	⑤	⑦
②	④	⑥	⑧

6 品詞の基礎

解答 222ページ

1 次の各文の――線部は、動詞・形容詞・形容動詞のどれですか。動詞には○、形容詞には△、形容動詞には×を線の右側に書きましょう。

①子りすは、あぶない目にあいながら、ようやくたどりついた。

②まるくて、きれいな大きい月が、東の空に出た。

③いつもじょうぶな体で、元気に活動している。

④非常に速く、みごとに飛ぶのは、やはりジェット機だ。

⑤この冬になって、急に体が弱って、思うように仕事ができません。

⑥かすかなうめき声が、まっくらなやみの中から聞こえてくる。

参考

動詞・形容詞・形容動詞の識別

動詞は言い切りの形が「ウ段」で終わります。形容詞は言い切りの形が「い」で終わります。形容動詞は言い切りの形が「だ」で終わり、この「だ」を「な」に言いかえることができます。

7 接続語・独立語・指示語

解答 222ページ

1 次の各組の二つの文または文章が同じ意味になるように、（　　）に入る適当な接続語をあとの語群から選んで答えましょう。

①風は強いが、空は晴れている。
　風は強い。（　　）空は晴れている。

②かれは絵もうまいし、字もクラスで一番だ。
　かれは絵もうまい。（　　）字もクラスで一番だ。

③理科か数学の自習をしなさい。
　理科（　　）数学の自習をしなさい。

④急いでかけつけると、笑いながらかれが待っていた。
　急いでかけつけた。（　　）笑いながらかれが待っていた。

［語群］　すると　　または　　しかし　　それに

参考

接続語

接続語は大きく分けて、①順接、②逆接、③並列・添加、④説明、⑤選択、⑥転換があります。

①	②
③	④

2 次の各文から独立語を書き出しましょう。また、その働きが、ア「感動」、イ「呼びかけ」、ウ「応答」、エ「あいさつ」、オ「提示」のどれにあたるか、記号で答えましょう。

①はい、私が作りました。　②ああ、いい歌だなあ。

③ねえ、早くしなさい。　④平和、それは私たちの願いです。

⑤山本と申します、こんにちは。

①	②
③	④
⑤	

3 次の文章を読んで、あとの問いに答えましょう。

友人なんて、つくろうと思ってつくれるものではない。①――それはむしろ、気がついたらできていた、というくらいのものだろう。なにしろ、こちらで仲のよい友人だと思ってなれなれしくつきあっても、むこうはちっとも②――そう思っていないのであれば、そんな関係は友情とは呼べない。友人は必要だ、友情は大切だ、なんて思いこんでいると、どうでもいい知り合いばかり増えて、かえって本当の友人と出会いそこなうかもしれない。そんなのは本末転倒だろう。③――それがいやなら、もっと気軽にかまえてみてはどうだろう――友人は〝つくる〟ものではなく〝できる〟ものなのだと。

問　右の文章の――線部①～③は、指示語です。それぞれが指示するものを、文中からぬき出しましょう。ただし①は二字、②は八字、③は解答らんに合うように十三字でぬき出してください。

①	
②	

参考

指示語問題への対応

この問題では、指示語のところに、指示されている語をあてはめて、文章が通るか確認してみましょう。

③

（解答欄）こと

参考

敬語法

敬語には、相手を上に置く尊敬語、自分を下に置く謙譲語、単に丁寧な言葉づかいにする丁寧語の三つがあります。

8 敬語法

解答 223ページ

1 次の①～⑤の最初にあげたことばを、敬語として適当な使い方に変えて（　）に入れましょう。（答えは解答らんに書いてください。）

①見る
ア 先生もいっしょにそれを（　　）になった。
イ お手紙を（　　）しました。

②行く
ア 来月はどちらへ（　　）ご予定ですか。
イ 途中まで私もいっしょに（　　）ましょう。

③食べる
ア 手作りですが、どうぞ（　　）てください。
イ では、せっかくですから（　　）ます。

④言う

ア　先生は私たちにこう（　　）ました。

イ　うちの父がよろしくと（　　）ておりました。

⑤する

ア　校長先生も綱引（つなひ）きを（　　）た。

イ　私もおてつだい（　　）ましょう。

①	②	③	④	⑤
ア	ア	ア	ア	ア
イ	イ	イ	イ	イ

2 次の文章中の――線部はふさわしいことばづかいではありません。敬語の使い方として正しい表現に改めましょう。

「ごめんください。」玄関で声がしました。

「はあい。①＿＿＿だれですか。」

「わたしはお父さんの会社でいっしょに働いている井上というものです。お父さんはいらっしゃいますか。」

「はい、②＿＿＿いらっしゃいます。ちょっと③＿＿＿待って。」と政子さんはおくへ入って、「お父さん。井上さんというかたが④＿＿＿来たよ。」

①	②
③	④

3 次の文章はある小学校の先生と男子生徒との会話です。この会話を読んであとの問いに答えましょう。

「先生、なにか［　①　］ですか。」

「きみの進学のことでお父さんに一度［②］話をしたいのだが、あすの午後学校まで来て［③］ないだろうかね。」
「はい、たぶん大丈夫（だいじょうぶ）だろうと思います。先生はあす何時まで学校に［④］ますか。」
「五時ごろまではいるよ。」
「では、帰りましたら、そのように父に伝えます。」

問　右の会話の中の［①］～［④］へ入れるのに最もふさわしいものを、次のア～ケから選びましょう。

ア　用事　　**イ**　くれ　　**ウ**　ご用　　**エ**　下さる
オ　お目にかかって　　**カ**　いらっしゃい
キ　いただける　　**ク**　いただく　　**ケ**　いただけ

①　　②　　③　　④

9 ことわざ

解答 223ページ

1 次の①～⑦のことわざは「いろはかるた」にも使われて、人々に親しまれています。□に入る漢字をあとのア～キから選びましょう。

①□も歩けば棒(ぼう)に当たる
②ちりもつもれば□となる
③良薬は□に苦し
④□の上のたんこぶ
⑤知らぬが□
⑥老いては□にしたがえ
⑦□から出たさび

ア 犬　**イ** 身　**ウ** 山　**エ** 子　**オ** 仏(ほとけ)
カ 口　**キ** 目

①	②	③
④	⑤	⑥
⑦		

参考

ことわざ
ことわざは、人生の教訓や生活の知恵(ちえ)などを、昔から言いならわされてきた短い語句(ごく)で、表現(ひょうげん)したものです。

2 次の①～⑤の□にあてはまる漢数字を答えましょう。

①□日ぼうず
②□階から目薬
③十人□色
④一石□鳥
⑤うり□つ

①	
②	
③	
④	
⑤	

3 次の①～④のことわざ・故事成語の意味としてあてはまるものを、あとのア～クから選びましょう。

①雨降って地かたまる
②石橋をたたいて渡る
③五十歩百歩
④亀の甲より年の功

ア　年長者の経験の尊いことのたとえ

参考

故事成語
中国の言い伝えに由来する語句が、故事成語です。この中では「五十歩百歩」が故事成語です。

イ　どちらにしても大して差がない
ウ　どうしようかと迷う
エ　失敗しないために用心すること
オ　何事をするにもじっくりと考える
カ　ごたごたした後はかえってうまくいく
キ　帰りの道は遠く感じられる
ク　年寄りのぐちには耳を貸すな

①　②　③　④

10 慣用句

解答 224ページ

1 次の①～⑳の慣用句の意味としてあてはまるものを、あとのア～エから選びましょう。

①耳がいたい

ア　耳に病気がある
イ　相手の言うことがわからない

参考

慣用句
人々の間で言いならわされて「きまり文句」となった語句が、慣用句です。

ウ　弱点をつかれてきいているのがつらい
エ　話しづらい

②歯が立たない
ア　苦しみにたえられない
イ　歯が丈夫でない
ウ　とても力が及ばない
エ　歯が痛い

③棒に振る
ア　ボール球をふって三振する
イ　相手をやっつける
ウ　むだにする
エ　他人にめいわくをかける

④□が重い
ア　つかれている
イ　不安である
ウ　食欲がない

エ　ことば数が少ない

⑤たかをくくる

ア　鷹という鳥をしばる

イ　大したことはないと見くびる

ウ　高い品物をくくる

エ　多い少ないの程度を見る

⑥首を長くする

ア　背筋を伸ばす

イ　礼儀正しくする

ウ　今か今かと待ちこがれる

エ　遠くのほうを見る

⑦目が高い

ア　身長が高い

イ　ねだんが高い

ウ　物のよしあしを見分ける力がすぐれている

エ　高い目標をもっている

⑧ふにおちない

ア　うまくいかない

イ　納得(なっとく)できない

ウ　思い通りにならない

エ　安心していられる

⑨頭が上がらない

ア　頭痛(ずつう)がして重たい感じがする

イ　相手を尊敬(そんけい)できない

ウ　相手に負(お)い目を感じて対等にふるまえない

エ　目的がわからない

⑩手につかない

ア　気にならない

イ　くっつかない

ウ　高いところにものがある

エ　他のことに心をうばわれて集中できない

⑪根掘(ほ)り葉掘り

ア　物事をだめにしてしまう

イ　庭や木の手入れをする

ウ　こまごまとしつこく

エ　畑をたがやす

⑫耳打ち

ア　耳をたたく

イ　そっと耳のそばで言う

ウ　耳に息をふきかける

エ　耳に水をかける

①	⑥
②	⑦
③	⑧
④	⑨
⑤	⑩

⑬けりがつく

ア　相手をけとばす

イ　ものごとの結末がつく

ウ　ひどい目にあう

エ　うまくいかないこと

⑭鼻にかける

ア　めがねをかける

イ　かわいがる

ウ　人に自慢する

エ　心配する

⑮ぬれ手であわ

ア　苦労しないで利益を得ること

イ　あわてて失敗すること

ウ　手応えのないこと

エ　よく洗濯をすること

⑯八百長（やおちょう）

ア　八百屋の主人
イ　非常（ひじょう）に長いこと
ウ　わざと負けたり勝ったりすること
エ　ひどく疲（つか）れること

⑰あごを出す

ア　いばる
イ　ひどく疲れる
ウ　ひげをそってもらう
エ　お金が不足する

⑱顔に泥（どろ）をぬる

ア　知らん顔をする
イ　顔の汚（よご）れをそのままにする
ウ　はじをかかせる
エ　いやな顔をしてみせる

⑲水に流す

ア　川にものを落とす

イ　よごれを取り除く

ウ　過去のいざこざをなかったことにする

エ　おぼれる

⑳顔から火が出る

ア　やけどをする

イ　とてもはずかしい思いをする

ウ　手品の一つ

エ　思わぬ発見をする

⑪	⑯
⑫	⑰
⑬	⑱
⑭	⑲
⑮	⑳

11 あいまい文

解答 224ページ

1 読点（　、　）の位置ひとつで文の意味がちがってくることがあります。次の①と②の文で、それぞれ（　　）の中の条件に合うように読点を一つずつ書き入れましょう。

①ぼくはなみだを流して再会を喜ぶ親友の手をにぎった。
（なみだを流しているのが「親友」の意味になるように）

②ぼくはなみだを流して再会を喜ぶ親友の手をにぎった。
（なみだを流しているのが「ぼく」の意味になるように）

2 次の①と②の文は、それぞれ意味が二通りにとれてはっきりしません。それぞれの意味が一つしか伝わらないように、文を二通りに書き直しましょう。ただし、読点（　、　）を使わずに直してください。

①山田君は吉野君と村上君を見舞いに行った。

②弟は笑いながらにげていく妹を追いかけた。

参考

あいまい文

作文を書くときは、上のような「あいまい文」をうっかり書いてしまわないように、注意しましょう。書き終わった後で、読み直す習慣をつければ大丈夫です。

②

①

12 国語辞書の使い方

解答 225ページ

1 次の各組のことばを、国語辞書にならんでいる順にならべかえ、記号で答えましょう。

① ア 机（つくえ） イ いす ウ 鉛筆（えんぴつ） エ ノート オ 消しゴム

② ア 合同 イ 行動 ウ 交通 エ 強盗（ごうとう） オ 口頭

③ ア 時（とき） イ 通り ウ 土器 エ 時々 オ 道理

④ ア 立場 イ 建物 ウ 体重 エ 大小 オ 宝物（たからもの）

⑤ ア 白紙（はくし） イ 場所 ウ 鼻息 エ 初耳 オ 灰色

⑥ ア 毎日　イ 満月　ウ 真冬　エ 真夏　オ 真昼

⑦ ア 列島　イ 列車　ウ 練習　エ 連合　オ 連勝

⑧ ア 目印　イ 目玉　ウ メダカ　エ 目標　オ 目次

⑨ ア 沼地（ぬまち）　イ ねこ　ウ においエ 似合う（にあう）　オ 野原

⑩ ア 会社　イ 解決（かいけつ）　ウ 悲しい　エ 悲しみ　オ 格別（かくべつ）

⑪ ア 重要　イ 自由　ウ 祝日　エ 写生　オ 写真

⑫ ア 大事（だいじ）　イ 退治（たいじ）　ウ 大使　エ 台紙　オ 台車

①	③	⑤	⑦
②	④	⑥	⑧

⑨	⑩
⑪	⑫

参考

清音・濁音・半濁音

「は行」を例にとるなら、「はひふへほ」を清音、「ばびぶべぼ」を濁音、「ぱぴぷぺぽ」を半濁音といいます。

2 次の文中の（　　）にあてはまることばを、あとのア～ケから選びましょう。

（①）の読み方がわからないときは漢和辞典をひいてみるのがよいが、（②）の（③）がわからないときは（④）をひくことが大切だ。（④）は、ことばが（⑤）順にならべてあるのがふつうだ。また、同じ「かな」でひく場合は、まず（⑥）が先で、つぎに（⑦）、（⑧）の順に出ている。カタカナによる外来語については、それぞれの国語辞書によってあつかいがことなることがあるので、使う前に辞書の一番最初に書かれてある「凡例（はんれい）」を読んで使い方をよく理解してから使うことが大切だ。

ア　漢和辞典　イ　国語辞書　ウ　漢字　エ　ことば
オ　濁音（だくおん）　カ　半濁音　キ　清音（せいおん）　ク　五十音　ケ　意味

①	②
③	④
⑤	⑥
⑦	⑧

13 日本語の種類と歴史（れきし）

解答 225ページ

1 次の文のア～カにあてはまることばを、あとの語群から選んで答えましょう。

日本語は、大きく分類すると、むかしから日本にある（　ア　）語、中国から文字でもたらされた（　イ　）語、中国以外の国々からもたらされた（　ウ　）語の三つがあります。（　ア　）語は（　エ　）読みし、（　イ　）語は（　オ　）読みするのが基本ですが、「火事」のように、日本で作られた言葉で（　オ　）読みするものもあります。また、

（　ウ　）語は、（　カ　）で表記することが多いです。

［語群］音・訓・漢・外来・和・カタカナ

ア	エ
イ	オ
ウ	カ